

# 2030年をターゲットにした7つの目標



SDGs (Sustainable Development Goals) は  
2030年に向けて世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です

SDGs	VHO-net の長期的な目標	重点課題	理由
 	1. ピアサポートの確立	ピアサポートの充実	ピアサポートの質にばらつきがある。 ピアサポートを体系的に学べる場が少なく、研修があっても初級レベルになっている。 多くの事例を集めたデータ分析があまりない。
 	2. 社会との協働	社会、地域とのつながり	自分たちの団体だけで活動しているだけでは、不十分。 自治体との協働や専門的集団との関わりがまだ不十分。
 	3. 医療に参画する	研究調査への協力	医療や医薬品の開発に関して、患者の立場として医療に参画する機会がまだ少ない。 PPI*1)を学習する機会がまだほとんどない。
	4. 行動基準を守る	信頼される団体をめざす	団体の組織運営で、「行動基準」を策定していない状況がある。 健全な組織運営のためには、団体の理念や行動指針をもとに「行動基準」が必要。 団体の透明性（事業報告、会計報告、役員一覧等）を示すことが必要。
	5. 災害からいのちを守る	災害時の対策	災害対策はまだ不十分。今までに起きた災害から学んでいくことが必要。 新しい災害に対する対策も必要。
 	6. 多様な財源の確保と人材育成	資金調達の充実 人材育成	同じような視点やバックグラウンドの人が集まっての意見交換では考えの広がりがなく、 判断に偏りがあり、意思決定が社会に受け入れられない内容になりがち。 さらには人脈を生かした資金調達が極めて難しくなる。組織もマンネリ化したり、形骸化しがちである。 多様なバックグラウンドの人との関わりによって、様々な資金調達を実現する。 資金調達に関する知識を高め、人材の育成をする。
  	7. ダイバーシティ&インクルージョン*2)の取り組み	性別、年齢、地域、国籍、 疾病/障がいの有無、 職種、経済状況等	団体がバランス良く、多様な人で構成されていない。 違う視点を取り入れることで、継続した活動への見直しや社会の変化に柔軟に対応した 団体の活動/事業が実現でき、また活かすことができる。 内面的・外面的な違いを認めて、活かしていく取り組みが求められる。

\*1) PPI「医学研究・臨床試験における患者・市民参画」とは、医学研究・臨床試験プロセスの一環として、研究者が患者・市民の知見を参考にすること（出典：国立研究開発法人 日本医療研究開発機構）

\*2) ダイバーシティ&インクルージョンとは、性別、年齢、障がい、国籍などの外面の属性や、ライフスタイル、職歴、価値観などの内面の属性にかかわらず、それぞれの個を尊重し、認め合い、良いところを活かすことなど